

明治三十九年六月十六日

統監候爵伊藤博文



内閣總理大臣候爵西園寺公望殿

逕予統監府鐵道管理局ニ於テ爾後採  
用スル雇員ニ付テモ當分ノ内本文ニ準シ  
取扱致度併セテ添申ス

統甲二九

明治三十九年六月二十二日

為

公



内閣總理大臣 望

法制局長官



外務省 陸軍省 海軍省

文部省 遞信省

内務省 陸軍省 司法省 農商省 教

別紙統監案中ノ件ノ審査スルニ其ノ要  
旨ハ京釜鐵道ノ買收ニ際シ其ノ職員ヲ  
現給ヲ以テ一時雇員トシテ統監府鐵道  
管理局ニ引繼採用ノ件別案案中ノ通

十二



決定ノ上ニ右雇員シ判任官ニ任用スル場  
合ニ現給トノ權衡上月俸四十圓以上ノ支  
給ニ尚私設鐵道ニ從事スル者ヲ統監府  
鐵道管理局ノ職員ニ任用スル場合、於テモ  
亦此ノ例ニ依ラント云フ、在リテ大体ニ於テ不  
得ニ儀ト思考ス然レトモ本件ニ不得已ニ出テ  
タル權宜ノ處分ニシテ頗ル異例ニ屬スルヲ以  
テ之ヲ適用ノ期間ヲ限定スルノ必要アリ而  
シテ其ノ期間ニ統監府鐵道管理局職員  
特別任用令附則ノ規定トノ權衡上右附則

ノ有効期間ト同一ナラシムルヲ相當トシ依テ尤  
案ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム  
追テ閣議決定ノ趣旨ニ關係各廳ニ通牒相  
成可然ト認ム



清  
書  
局

案

京釜鐵道株式會社、鐵道事務若し清算事務に従事スル者ヨリ採用セラルタル統監府鐵道管理局、雇員又し私設鐵道ノ事務、従事スル者ヲ統監府鐵道管理局、判任官ニ任用スル場合、於し、統監府鐵道管理局職員特別任用令施行後一年ヲ限り特ニ月俸四十五圓以上ヲ支給スルコトヲ得

京釜鐵道株式會社、清算事務、従事スル者ヲ統監府鐵道管理局、判任官ニ任用スル場

去  
刊







○判任官俸給令中改正件 明治三十五年六月  
勅令第三十三号

判任官俸給令第三條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シハ八級俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス

○同上 明治三十五年十月  
勅令第三十号

第三條但書中「八級俸」ヲ「六級俸」ニ改ム



奏照

明治三十四年八月内訓官吏進級内規中第二項ヲ左ノ通改ム

明治三十一年十月二十四日

内閣總理大臣候爵山縣有朋

一 初等判任官ニ任スル者ニ支給スル俸給額ハ月俸四十

圓ヲ超過スルコトヲ得ズ



○文部省ノ指令 明治三十五年三月二十三日  
帝國大學分科大學卒業生ノ判任官ニ採用  
ノ節俸給支給方ノ件ハ月俸五十圓ヲ限リ  
トシ適宜支給セラルヘシ



○明治三十七年十一月十日内閣書記官長通牒  
文官高等試験合格者ヲ初メテ判任官ニ任用ノ節  
俸給支給方ノ件ハ月俸五十圓以内適宜支給ニ得  
ルコトニ閣議決定セリ



法部省 第五五号 六月十日

號外

法部省

京釜鐵道買収ノ節現在、京釜鐵道株  
 式會社使用人ハ清算事務ニ從事スル者  
 ヲ除クノ外買収ノ日ニ於ケル現給ヲ以テ一  
 時総テ雇員トシテ引繼採用ノ件別案  
 稟請ノ通決定ノ上ハ右雇員ヲ利任官ニ  
 任用スル場合ニ現給トノ權衡上初月  
 俸四十圓以上ヲ支給スルノ必要有之仍テ  
 此ノ場合ニ限リ初月俸給四十圓以上ヲ  
 支給致度此稟請候也

甲二九

充 益 好



明治三十九年六月十六日

統監候爵伊藤博文



内閣總理大臣候爵西園寺公望殿

進テ特別利用ノ旨ニ承リ、私設鐵道ニ從  
事スル者ヲ本官ニ採用スル場合モ本文ニ  
準シ取扱致度此般併セテ稟申ス

統甲三〇

明治三十九年七月二日

海

濟

内閣總理大臣 望

法制局長官



外務省 陸軍省 海軍省

文部省

逓信省

農商省 司法省

内務省

陸軍省

海軍省

文部省

逓信省

農商省

別紙統監稟申ノ件ヲ審査スルニ右  
ハ昨年十二月二十五日閣議決定ノ趣  
旨ニ準シ本邦人ニシテ統監府鐵道  
管理局又ハ統監府法務院ノ雇員夕